

素敵に輝け！

「進んで反応」が嬉しいな

17日（木）の昼休みのことです。職員室から廊下へ出ると、すぐ前のスチール棚の所で2年生のAさんが何かを書いていました。「何書いとるが？」と聞くと、Aさんは、「給食委員会に入れようと思って」と答えてくれました。給食委員会とは何かと言うと、「給食の時間に放送するクイズ募集の紙」です。Aさんはクイズを考えてポストに入れていたのです。

このAさんは、至徳19号でお知らせした「これは何の卵でしょう？」で予想してくれた子です。あの時は「ウシガエルを描こうと思ったけど、形が分からんようになって、こんなのになりました」と言って、4本足の生き物を予想して絵を描いてくれました。

校内の貼り紙を見たり、放送を聞いたりするなど、アンテナをピンと立てて情報を得て、それに進んで反応するところがとてもよいと思います。投げかけた方としても、反応があるのはとても嬉しいことです。Aさんの考えたクイズが楽しみです。



関心が広がって

今度は、「これは何の卵でしょう？」で予想してくれたもう一人、5年生のBさんについて紹介します。

あの卵があったビオトープ池へ行く機会があったそうで、その時の様子を「校長先生へ」と手紙で知らせてくれました。それを読んで

- ・寒い中、家の中に縮こまっていることなく、観察に出かけたこと。
- ・池に向かう途中にあった動物の足跡を見て、「どんな動物だろう」「大きさはどれだけだろう」を考えを巡らせたこと。
- ・池だけでなく、木々のこと、落ち葉のこと、日差しのことなど、環境についても学んだこと。
- ・卵をよく観察し、他の物に例えて、分かりやすく表現していること。
- ・詳しい人の話を聞き、知識を得ることのよさを感じていること。

など、感心したことを書いて返信しました。観察に行ったことが、学びとなり知識となっていると感じます。

自身を振り返ってみると、小さい頃の体験で知ったことが、今なお知識として残っているものがたくさんあります。当時の思い出がそのまま知識なのです。きっと皆さんもそうではないですか。だからこそ子供たちには、いろいろなことを経験してほしいと思います。